

今日の話題



大学に進学する生徒が児童養護施設に少ないのは、経済的な理由だけではない。

児童養護施設で暮らす高校生が経験をした。子どもへの貧困解決へ提言をした。その中での指摘だ。

自分たちに欠けているものとして、外とのつながりを挙げた。人生のモデルにできる、目標に向けて道を切り開いていく人との出会いに乏しく、進学する目的も持ちにくいと分析した。

提言作成は、教育支援グローバル基金(橋本大二郎理事長)が人材育成事業「レヨンドトゥモロー」として行った。全国の高校生8人が2泊3日の合宿をして議論をし、内閣府で発表もした。

提言は、現状を憂えるため企業や大学、支援団体など連う世界の人々との交流を求めている。

新しい出会いがあれば情報が得られ、夢に向け行動を起すことができる。それが将来の可能性を広げ、脱貧困につながる。提言づくりに参加した長野県の荒川未菜さんは話している。

「私は自分がかわいそうだとは全く思っていません。(児童養護施設は)ただ、少し運が悪くて、一緒に暮らしている場所だということを知ってもらいたい」

同基金事務局長

の坪内南さんは「児童養護施設の子どもは、退所後はどう生活するかなど日々の暮らしが重要で、それ以外に目が向きにくい。厳しい経験をした彼らが、社会の力とされるよう応援することは、社会にとっても意味がある」と言う。

状況を憂えるため、つながりを求める子どもたち。できることは何かを考えたい。(嘉指 博行)

2017.9.15